

Program Outline

プログラム概要

2003年度の『EDUCATIONAL SYMPOSIUM 2003』は、
終了いたしました。
多数のご参加ありがとうございました。

がんの治療においては、医師、看護師、薬剤師など、患者さんを取り巻くすべての専門スタッフがそれぞれの専門知識と経験を活かしつつ、ひとつのチームとして、より適切な治療法とケアのあり方を検証する必要があります。そこでは、各スタッフに課せられた役割と責任を相互に理解し、信頼感をもって治療戦略を検討するチーム作りが重要となります。

この度のシンポジウムは、メインテーマに「患者ベネフィットを目指すチームアプローチ」を掲げ、M.D. アンダーソンでの乳がん治療におけるチーム医療の実例紹介を通じて、参加者が臨床現場に戻ってから実践可能なチーム医療の取り組みへのきっかけづくりとしていただくことを主旨としています。

TIME	CONTENTS	CHAIR/LECTURER
第1部：M.D.アンダーソンがんセンタースタッフによる講演（9:00～14:50）		
9:00	Introduction	上野直人
		座長 中村清吾 聖路加国際病院外科医長
9:15	エビデンスに基づいた標準的ケアを実施するためのチームづくり	Richard Theriault
9:40	看護師/リサーチナースの役割とその評価	Laura Guerra
10:00	臨床薬剤師の役割とその評価	Hetal Shah
10:20	《休憩》	
10:40	チーム医療における腫瘍外科医と腫瘍内科医の関係	Berry Feig / Francisco Esteva
11:10	患者が抱える問題の把握	Joyce Neumann
11:30	MDACCで見たチーム医療の実例	2003年度 MDACC Training Program 日本人参加者
12:10	《昼食休憩》	
		座長 渡辺 亨 国際医療福祉大学腫瘍内科教授 山王メディカルプラザ オンコロジーセンター長
13:10	がん治療における副作用の実践的管理法 (1) 好中球減少／疲労感／がん性貧血	Kellie Jones / Joyce Newmann / Francisco Esteva
14:00	がん治療における副作用の実践的管理法 (2) 悪心・嘔吐／粘膜炎症／便秘／下痢／疼痛	Hetal Shah / Laura Guerra /Berry Feig
14:50	《休憩》	
第2部：パネルディスカッション（15:10～17:30）		
15:10	Medical Scenario Quiz:チームdeびったし! 「コミュニケーションから始まるコンセンサスづくり」	上野直人／中村清吾
17:10	Closing Remarks	日野原重明 (財)聖ルカ・ライフサイエンス研究所理事長